

## 平成26年度事業計画（案）

### 1. 基本方針

本年は日本の科学研究そのものへの信頼を失わせかねない STAP 細胞の論文をめぐる問題が起こったが、日本包装学会では平成26年度も引き続き「社会の要請に応えうる開かれた学会づくりと、次世代包装人の育成」について、さらには「国際化の推進」を柱に加え事業展開をしたいと思えます。これらの日標を実現するために、以下の方針をたてます。

#### 1) 産官学各分野の均衡ある活動促進

大学等の包装関連研究領域の研究者あるいは学生の学会への関心を高めるとともに、学会の運営においても学の立場からの意見をこれまで以上に取り入れることができるように配慮していきたいと思えます。また、企業等の研究者に対しては、研究成果を科学としてまとめて発信してもらえ場の構築について努力を継続します。

#### 2) 学生や若手研究者・技術者に魅力ある学会へ

若手研究者、技術者、学生会員のために、学会発表での各種優遇、表彰を引き続き充実させるとともに、発表時間等の弾力的な配分等を検討します。また、学会運営への参画の機会を増やします。

#### 3) 国際化の推進

学際化、国際化のために I P S を国際的な研究・技術交流の場の中核と位置づけ、国際交流活動を更に活発化させます。また、アーカイブスのウェブサイトでの掲載を英語を含めてできるようにします。

### 2. 学会の運営計画

#### 2-1. 第23回通常総会

日時:平成26年7月4日(金)

場所:東京大学 弥生講堂 会議室

#### 2-2. 理事会

平成26年度は、3回(うち1回は年次大会時)の開催とする。

#### 2-3. 会長補佐会議

理事会同様、3回開催の予定とする。ただし、緊急性の高い審議事項のある場合は、臨時に開催するものとする。

### 3. 各委員会の活動計画

#### 3-1. 編集委員会

##### ① 年度の活動方針と活動計画

- ・ 昨年度に引き続き、「日本包装学会誌」を6回発刊する。
- ・ 各号で編集責任者を決め、特集を企画する。
- ・ 「巻頭言」、「包装基礎講座」等を連載する。
- ・ 論文投稿を学会内外へ広く呼びかける。

##### ② 委員会開催 6回開催予定

[長期活動方針]

論文投稿を学会内外へ広く呼びかける。

### 3-2. 企画委員会

委員会は年4回開催し、話題性のあるシンポジウムテーマの発掘と演題を選定し、シンポジウム参加者の増加と会員への質の高い技術情報の提供を図っていく。非会員の参加を促す方法としては、学会に興味を示す研究者に、企画委員紹介を条件に、会員扱いでシンポジウムに参加させ正会員への登録を促す。

(シンポジウム開催予定月)

第64回6月20日「適切な包装設計のための輸送振動計測とその再現に関する研究の最新動向」

第65回 10月, 第66回 2月

#### [長期活動方針]

社会のニーズや包装の最新技術などを反映したシンポジウムを開催し、学会会員、包装技術者へ最新の情報提供を行うとともに、会員増加に努める。

### 3-3. 研究委員会

4つの研究会にて下記の活動を計画している。

- ① バリア材料研究会:第20回バリア材料研究会を、11月または12月に開催計画中である。
- ② 輸送包装研究会:輸送包装ディスカッションを9月19日にIMV株式会社にて開催する予定である。
- ③ MAP研究会:年度内に研究会(講演会)を開催するとともに、会員相互の情報交換の機会を設ける。
- ④ 包装とユビキタスID技術研究会:見学会を2回開催する予定。(JPRイノベーションセンター、DNPICタグ実験工房など) 今後の活動計画について打ち合わせを実施し、スケジュールを作成する。

#### [長期活動方針]

現在活動中の4つの研究会には今後も継続して活動していただく予定である。各研究会の活動を通じて、学会の活性化をめざす。各研究会の長期的活動方針は次のとおりである。

- ① バリア材料研究会:米国、欧州、日本/アジアの各極にメンバーと拠点を持つ強みを生かした情報交換や人材交流。
- ② 輸送包装研究会:輸送包装ディスカッションなどの情報交換や人材交流の場を提供。
- ③ MAP研究会:最新技術情報の発信と論文投稿の推奨。
- ④ 包装とユビキタスID技術研究会:「情報ITネットワーク社会における包装」という切り口から活動。

### 3-4. 大会運営委員会

#### ① 本年度の活動方針と活動方針

第23回年次大会を東京大学において開催する。包装の各分野で活躍されている研究者・開発者が日頃の研究成果を発表し、活発な議論を通じて互いに切磋琢磨することで、包装学・包装産業の発展寄与できる大会とすべく準備を整えていく。

#### ② 委員会開催

9回開催(予定)

#### ③第23回年次大会

会期:平成26年7月3日、4日

会場:東京大学 農学部 弥生講堂一条ホール他

発表予定数:50件

その他:特別講演(1件)、受賞講演

#### [長期活動方針]

年次大会のさらなる活性化:発表者数、大会参加人数を増やすため、アンケートなどの実施を通じて参加者の意向を把握し、より参加しやすい大会の開催を目指す。学生等、若手の積極的な参加啓発。

### 3-5. 広報委員会

- ① 会長挨拶、受賞履歴公開等、ホームページにおける学会紹介を充実させる。
- ② TOKYO PACK 2014に出展する。
- ③ 会員募集ポスターの新たな活用方法を検討する。

#### [長期活動方針]

ホームページの改善を中心に情報の発信を強化し、継続して会員増強に努めていく。

### 3-6. 包装アーカイブス委員会

- ① 平成21年、22年、23年、24年発表分につき、ウェブサイトでの掲載を開始する。
- ② 委員会開催により、次期アーカイブス作成計画および包装技術年表の作成計画をたてる。
- ③ 包装アーカイブスの英訳版を瓦谷氏の協力を得て英訳を進め、ウェブサイトに掲載する。

#### [長期活動方針]

アーカイブスのウェブサイトでの掲載と発信を日本語、英語を含めてできるようにする。

- ・ 包装技術年表の充実とアーカイブスの体系化を進める、
- ・ 他団体(JPI、食品包装技術研究協会、他包装技術に関連する協会)との連携を行っていく。

### 3-7. 国際交流委員会

メール審議を主として、以下の活動を実施していく。

- ① IPS'15の企画
- ② 「海外情報」の学会誌掲載
- ③ 韓国包装学会との交流継続
- ④ 海外の研究者から学会誌への投稿推進
- ⑤ 国際交流委員会内規の検討

### 3-8. 学会賞等選考委員会

- ① 平成27年3月末までに、学会賞、奨励賞、論文賞、功労賞について、授賞選考を行う。

#### [長期活動方針]

毎年度、学会賞・奨励賞の両賞を授賞できるように、理事等への働きかけを含めて、積極的な候補者推薦を促す。

論文賞については、選考基準を満たした論文を積極的に推薦する。

### 3-9. 財務委員会

- ① 各委員会活動を支援可能な予算の作成。
- ② 支出削減による収支バランスの健全化を図る。
- ③ 毎月の財務状況確認による健全な財務運営。

#### [長期活動方針]

健全で透明な財務運営を目指すとともに、会員増強等に向けた各委員会活動を財務面から支援する。

### 3-10. 総務委員会

- ① 総会、理事会、会長補佐会議の事務局として、効率的な学会運営を進める。
- ② 財務状況の改善に向け、会長補佐会議、理事会での討議を進めていく。
- ③ 学会活性化に向けた活動について、討議を継続していく。

以上